

学校番号				
3	4	0	0	4

令和7年度 札幌市立日章中学校 学校関係者評価書

令和8年(2026年)3月9日
札幌市立日章中学校

1 本校の学校教育目標

日にあらたに 日々にあきらかに	
高い理想を求める生徒(意)	◇わたしたちのため ・進んで学ぶ生徒
たくましい知性をみかく生徒(知)	・思いやりのある生徒
美しい友情に結び合う生徒(情)	・ねばり強い生徒 ・いのちを大切にす生徒

2 令和7年度の重点目標

<p>(1) 「日章基盤」の盤石化 ～ 伝統の積極的継承・発展を目指す</p> <p>①学校教育目標→目指す生徒像(わたしたちのため)の具現化、基本軸の共有 ↳小中一貫した教育における『日章中学校区 目指す子ども像』と連動</p> <p>②三つの伝統(日章のあいさつ ボランティア 合唱) ↳日章のあいさつ(あ)かるく (い)つも相手より (さ)きに (つ)たえる)</p> <p>③生活の三本柱(時間を守る 身なりを整える 正しい言葉遣い)</p> <p>④日章基盤を支える「発達支持的生徒指導」「課題予防的生徒指導」を重視する。</p> <p>⑤学校教育全般を通して、「自律・他者尊重・創造」の感度を高める。 ・教師はより「生徒指導→生徒支援」へ。生徒はより「他律→自律」へ。 ↳校則の見直し、子どもの意見表明権の保障など</p> <p>⑥A・A・Rサイクルと課題探究的な学習の実施 ・[見通し→行動→振り返り]のサイクルの実効性を求め、学びの見通しを持てるためには?自己選択・自己決定できるようにするには?自ら成長や学びに進捗を自覚できるようにするには?を意識する。 ・評価、反省が具体的改善につながり、生かされるための方途を求める。 ・手段の目的化を防ぎ、目的を明確にするとともに、仮設→実行→検証のサイクルを意識する。</p>
<p>(2) 「学びの質を高める」教育活動の工夫</p> <p>①きめ細やかな指導方法の工夫とICTの活用を組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて研究・実践に努める一年とする。</p> <p>②教員一人一人が「ICTをどう使うか、何のために使うか」を考え、活用の質的改善を図る。</p> <p>③校内研修会の計画的な企画運営、教科会、授業交流、各種アンケートの活用を通して、教育活動の弛まぬ改善に努める。</p> <p>④指導と評価の一体化をさらに進め、授業の質的改善、観点別評価の見取りや評定への総括における実践的研究を継続する。</p>
<p>(3) 「生徒支援型の生徒指導」の推進</p> <p>①子ども一人一人が「自分を大切にされている」と実感できる教職員のかかわり。</p> <p>②子ども一人一人が「自分を肯定し、受け止める」と同時に、自分と違う「他者を肯定し、認める」学校風土づくり～「相互承認」の感度を高める。</p> <p>③「決まり・ルール指導」から「自律・他者尊重」、「モラル&マナー」の生徒支援へ</p>
<p>(4) 「小中一貫した教育」の推進とCS事業の準備</p> <p>①本校が中心となって、パートナー校とともに、新たな組織と年間計画に基づき、推進に努める。推進組織と4つのワーキンググループを設定。</p> <p>②別紙「日章中学校における関連事業」においては、職員会議提案段階で、そのねらいに小中一貫した教育の視点を盛り込み、意味づけと価値づけを明確にする。</p> <p>③パートナー校合同研修会を実施。乗り入れ授業とグループワークを実施する。</p> <p>④推進体制を確立し、小中の全職員が所属する組織を創設する。</p> <p>⑤札幌教研事業春の研究集会において合同研修・研究を推進する。</p> <p>⑥令和8年度CS事業実施に向けた話合いとパートナー校との連携。</p> <p>⑦準備委員会の設立と学校運営協議会のメンバーの選定</p>
<p>(5) 保護者・地域との有機的な連携構築</p>
<p>(6) いじめ対応について</p>

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
人間尊重の教育	生徒理解を基盤とした生徒に寄り添う生徒指導が展開されているか。	A	○発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導の実践を目指すとともに、不登校生徒、集団不適応生徒に対する支援を組織的、計画的に推進する。 ○生徒のよいところを認め、日頃から相談しやすい関係、環境づくりを継続して目指す。	◎	◎
	生徒がいつでも相談できる体制が整えられているか。	A	○学校・家庭・地域がつながり、生徒が「自分が大切にされている」という実感をもち、安心して生活できることを目指し、支援のあり方を模索していく。	◎	◎
	生徒たちによる主体的な学校づくりが進められているか。	A	○生徒会が中心となって行っている自治的な活動が札幌市から認められ、本校の教育の特色となっている。この取組を基盤とし、生徒が主体的に学校生活を送れるように支援していく。	◎	◎
	生徒の基本的な生活習慣が確立されているか。	A	○全国平均よりも規則正しい生活を送っていることが分かった。校内生活において、生徒は意識を高くもって生活している。引き続き家庭と連携し、より良い生活習慣の獲得を目指して支援していく。	◎	◎
	社会に開かれた教育課程が編成、実践されているか。	A	○学校だよりの発行と学校ホームページの定期的な更新によって、情報の公開を進める。 ○行事、授業の公開を通し、保護者、パートナー校の6年生へ情報の公開を継続していく。	◎	◎
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「自分のことをよく理解してもらっている」「親身になって相談にのってもらっている」という項目(=「自分が大切にされている」につながる項目)で肯定的な回答が多いのは素晴らしい事です。生徒がこのように感じているから、日章中学校は落ち着いた生活を送れていると思います。 ・生徒の声を細やかに聞き取ることは大変なことだと思います。しかし、その大変なことに先生方がしっかり取り組んでいることがよくわかりました。 				

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	充実した日々の授業実践が行われているか。	B	○校内研修会や教科会による研修が進め、これからも「分かる・できる・楽しい」授業実践を目指して研鑽していきたい。 ○来年度からの5教科前後期制へ向け、よりガイダンス機能を充実させ、指導と評価の一体化を目指していく。	◎	◎
	生徒の「学び」の習慣づくりに向けての取組が効果的に成されているか。	B	○生徒が見通しをもって学習に取り組めるように、教科を中心として継続して支援していく。学校で取り組むこと、家庭にお願いすることを明確にし、生徒にとってより計画的で効果的な活動となるよう修正・改善していく。	◎	◎
	総合的な学習の時間の充実が図られているか	A	○3年間の系統性をもったより充実した「総合的な学習の時間」となるよう計画を見直し、学習の基盤となる資質・能力を身に付けられるように支援する。 ○保護者や地域へ向け、積極的な情報発信を行うことでより多くの方に取組を知ってもらい、応援してもらえるように努める。	◎	◎
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活は学習が基本です。生徒も先生もしっかり努力を重ね、これからも追究して行ってほしいです。 ・「学び」の習慣づくりは、学校だけでなく家庭も頭を悩ませる項目です。教科指導の中で、小テストなどを利用して生徒の家庭学習の機会をつくることは有効な手立てと感じました。 ・授業をしっかり受けることがとても大切です。生徒は「授業が楽しい」と思っているのだから、後はそれを生徒自身が自分のものにすればよいのです。「どうやったらできるようになるのか」ということは「テストで何点とれたのか」よりも大切なことです。 				

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	一人一人の生徒に役割と居場所が与えられているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人間尊重の教育を通し、多様性を認め合える学校づくりに努める。 ○日常的な取組の中で、生徒同士が互いの頑張りを認め合えるような機会を創出する。自分が必要とされていることを実感できるような体験を通して自己有用感が高められよう支援する。 	◎	◎
	教育活動全体を通して道徳性の涵養と道徳の時間の充実が図られているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳」22項目と実生活や実社会を結びつけて、体験的な学習を取り入れながら道徳性の涵養を目指す。 	◎	◎
	特別活動を通して生徒の社会性が醸成されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・学年・学級活動において、それぞれの役割、活躍の場を保障し、責任をもって成し遂げられるよう支援しながら、達成感や充実感を味わえるよう努める。 ○「主体的かつ協働的」に取り組める特別活動を計画し、それぞれの活動を通して、社会性が醸成されるよう努める。 	◎	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・スノーキャンドルボランティアの様子を見守りましたが、とても真面目に一生懸命に取り組んでいました。「自分が必要とされている」という肯定的な回答が多くないのは、遠慮している部分もあるのではないのでしょうか。 ・いろいろな先生が道徳の授業を行うのは、大変素晴らしいです。たくさんの先生の考えに触れることは、生徒にとってとてもよいことだと思います。 ・小学校の頃から生徒たちを見守っていますが、自分のことだけでなく、思いやりをもって他者と接する姿を見て、心の成長を大きく感じています。中学校での学びのおかげで大変立派になりました。 			

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重要指標	生徒たちは楽しく学校生活を送っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○8割程度の生徒が「毎日学校へ行くことが楽しい」と感じている。今まで通りの安心・安全な学校を維持しながら、より魅力ある学校づくりを目指す。 ○協働的な学びと個別最適な学びを取り入れた授業実践を目指すことで「学習が楽しい」となる生徒を増やす。 ○未来へ期待や希望がもてるような、そして、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるような学校づくり、教育活動を目指す。 	◎	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が「学校に行くのが楽しい」と思っているのは、とても素晴らしいことです。 ・これからも先生方には生徒のいい所に目を向け、伸ばしていってくださることを期待しています。子ども自身も、自分のいい所に気が付き、自信をもてるようになることを願っています。 ・いろいろな選択肢があるので、その子に合った学び方を見付けられたらよいのではないのでしょうか。 ・先生方の努力によって、日章中学校は落ち着いた学校生活を送れているのだと思います。 			

*達成状況は学校評価アンケートなどの結果より、肯定的な回答が80%以上：A、80%未満～50%以上：B、50%未満：C